

話じやれ (13)

岐久 ようこ

銀座がホームグラウンド

「若さと美しさだけではないわ」
思い悩むほど

そこでクラブのママは目を開いた

お店にやってくる客に

歌手の卵のような若者もいる

「私の作った歌詞なんだけど どう？」

「噂の女」ですか いいですね

十九才で京都から上京 この銀座に店を開設した

彼女自身のことではないけれど

確かに彼女の出現は

パアーツと評判になりました

内山田洋とクールファイブが歌う 山口洋子作詞

「噂の女」はヒット!

それだけでなく昭和四十五年のこと

ある夜

デビューしたものの今ひとつの青年に

「五木ひろしに名前変えてみたら？」

「よこはま たそがれ」で
パワーと発進!
彼女のイチバンの出世頭となる

お化粧の 時間もさいて 猛ダッシュ
作詞家か 五木ひろしの 親なのか



どんと当たれ

あみだクジも紐クジもあつた
当たるとウレシイ！ だけど

||はずれ||がある

「当たり！」とカランカラン

鳴り響かせたいですネ

クジ運はありませんが

本屋の入り口で目についたのが

「一億あつた人の末路」という題字

気持ち揺れるなーとクジ売り場の中へ

「一歩すすんで前ならえ

ちよつとシャガンで栗拾い

一歩すすんで偉い人」NHKの

テレビでやってます

クジは運まかせです

シャガンで現金なら別ですが

栗では拾いませぬ

たまたま一億円が転がりこんで

エライこつちやーと

空を仰ぎ感激したあと

まったく別人になった人あり

偉人にもなりましょう

矢や弓を 引く訓練を おこたるな
宝クジ 番号いとめる その日まで



駒おむすび

少年にも心ついたとき

町内に将棋教室があつて母から

「学校から帰ったら

教室へまずいってから遊んでね」

最初はしかたなく

だんだん好きになつて

なぜか兄弟三人のうち自分だけが

将棋の奨励会に入れてもらえるほどに

腕をつけた

やがて遠方の大阪へ通つたりして

三段という階級を手にした

でも同好の仲間たちは

「おむすび百人兄弟」ぐらい多く

そこから四段へ上がるには狭き門

上がったら中学生のプロ棋士となつて

「ワーすごい！」となつたのに

毎回もうちよつとでバスに乗り遅れる

やつとバスにしがみついてヤッター

勝星ふやして四段に

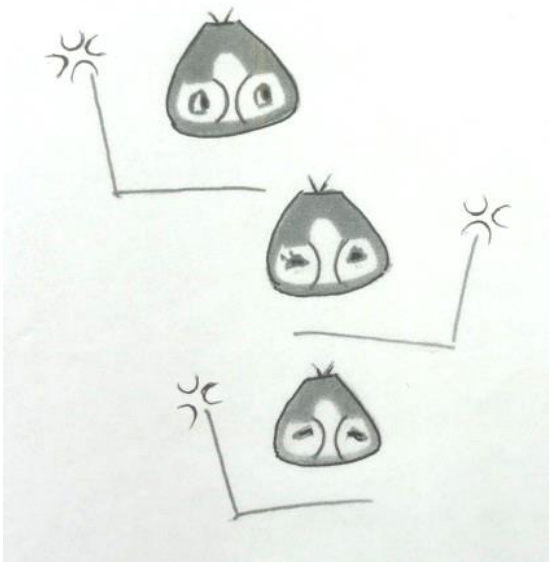
「特別な才能を少なからず持っていたかな」

いやいや それもだけど

親や師匠が環境を整えてくれたんだ

親むすび 子むすびコネて いくうちに

四段へ おむすび力で 突破できた



どこに逃げますか

故郷の顔になるものですと

どこの市町村でも猿カニ合戦

法令を守っているのは後れをとる

「ふるさと納税の返礼品は何としよう」

「地場産品に決まってるんじゃないですか」

いくら声高に言ってもとどかない

顔をしかめる総務省

もうこのままでは

「違反すれば優遇措置は受けられませんよ」

そうでたら寄付金の

受け入れ昨年ナンバーワンの泉佐野市

すぐさま今月から来月にかけて

「アマゾン百億円提供」というキャンペーン

金額の最大二十パーセントまで

返礼品の上になだします

「のんびりしてられない」

「童謡を歌ってなどいられない」

ものが悲しさを感じさせて

それが優しさに通じるのに

「もののあわれ」を育てた

たき火 いろり 鎮守の森は
消えかけ
残るのは返礼品ずらりの店開き

返礼品 多い少ない 真ん中か
猿は木に カニは横へと 逃げていく

